

ボール転がそう 出雲市立中央保育所

二人の2歳児が、腰の上ぐらいの高さの斜面に、子どもが握れるほどの大きさのビニールボールや新聞紙を丸めて作ったボールを転がして遊んでいた。

そのコーナーは、幼児の机を斜めに固定してダンボールで囲った斜面があり、転がしたボールが出ないようにトンネルやダンボールで囲ってある。

斜面には、2リットルのペットボトルで作った筒（子どもの手が筒の中央まで届くほどの長さ）もあり、斜面を転がしたりその筒の中にボールを通したりすることを繰り返し楽しんでいた。

ボールを転がしては転がる先を目で追い、転がって行った所のボールや違う箱に入っているボールを取ってきて転がしていた。



A児・B児の様子	保育者のかかわり
<p>A児：新聞紙のボールをペットボトルの中を通して転がそうと、中に入れる。 しかし、中央で止まってしまい転がり出てこない。 ペットボトルを両手で持ってゆするが出てこない。 中に手を入れる。（とどかない） 反対側の口から手を入れてやっとなどき、ボールをつかんで出す。ボールが転がる囲いの中に投げ入れる。</p> <p>B児：取ってきたボールを、A児のように投げ入れる。 B児：ボールが入っているダンボール箱から1つとって、また投げ入れる。 A児：転がって溜まっている所からボールを3つ持ってきて、3つを順にペットボトルの中を通して転がす。転がる様子を見届ける。 A児：保育者の顔を見て、それから斜面に前のめりになり、斜面を少し叩いて（「すべるよ！」という合図のように）、滑り降りる。</p> <p>B児：斜面のペットボトルの中を通してボールを転がす。 転がるのを見届け、下まで行くとすぐに、斜面に両手を伸ばす。 保育者の顔を見て、斜面に前のめりになる振りをするが、保育者の肩に手をかけて、斜面に足をかけて保育者に体を預けるようにして斜面に足を下にしてうつむきになり、滑り降りる。</p> <p>A児：B児が保育者にかかえられるようにしてすべるのを見届け、B児が自分の方を見ているか視線で追いながら、自分ももう一度斜面をすべる。 B児：A児の方を見ていない。 A児：新聞紙で作った玉を3つ抱えるようにしてもってきて、保育者に「見て！見て見てえ！」と言って見せる。 新聞紙の大き目のボールなので両手で抱えていたが、2つを片手で抱え、1つをペットボトルの中を転がす。2つ目は斜面をそのまま転がし、3つ目はペットボトルの中を転がす。自分も斜面を滑り降りる。</p>	<p>保育者：そばで見守っている。</p> <p>ペットボトルを押さえている。 「取ったー。やったー」と笑顔で声をかける。 保育者もボールを転がす。</p> <p>A児と顔を見合わせ、「すべりたい？すべる」と言い手を支え「ワーハハ」とうれしそうな声を上げる。（A児の気持ちのような声）</p> <p>保育者：「すべるんだね。こっち向きにすべるんだね」と言い、体を支える。</p> <p>保育者：「いっぱい持ってきたねえー」と言い見る。</p>



みどころ

注目していただきたい点や事例の特徴を財団がまとめました。

二人は、保育者と顔を見合わせたり言葉を交わしたりしながら、斜面のボール転がしを楽しんでいます。A児は既製の転がりやすいボールと新聞紙で作った手作りのボールの両方を使って、持った時の感触や持ち方の違いを感じ、また、それぞれの転がり方の違いを感じています。ボールの転がる様子から「自分も滑ってみたい」と体で斜面の様子を感じる動きも出て、興味を持ったものに自分からかかわり、全身で色々なことを感じていることを捉えることができます。また、B児は自分なりに同じ場で遊ぶ友達の興味を持った動きを取り入れ、A児は自分と同じ動きをする友達に関心を持って視線を送るなど、2歳児なりのかかわりが表れ、繰り返し遊ぶ中で色々な動きが引き出され、探索行動が広がっています。